



## スイス再保険の最新シグマ調査「2008年の世界の保険」 先進工業国で保険料の落ち込みが続く中、日本は緩やかな成長

本件に関するお問い合わせ

スイス再保険会社 日本支店  
コミュニケーションズ  
横田 真紀

Tel 03 3272 4888  
Fax 03 3271 0990  
www.swissre.com

2009年6月30日、東京ースイス再保険(以下スイス・リー)による最新のシグマ調査「2008年の世界の保険」によると、2008年には世界の保険料ボリュームが2%下落したにもかかわらず、日本の保険市場では総保険料が6.8%増加し、下降トレンドからの反転の兆しがみられました。アジア太平洋地域における保険料の伸びは大きく、特に中国では31.3%と著しく拡大しました。

シグマの推定によると、2008年日本の生命保険の保険料は37兆7000億円(3670億米ドル)と9.6%の伸びを示し、2007年に16%下落した分の一部を盛り返したものの、2006年に記録した40兆2000億円にはとどきませんでした。また、損害保険料は、2008年は前年比で2.1%縮小し、保険料総額は10兆9000億円(1060億米ドル)となり、2007年の同2.5%に続く落ち込みとなりました。

世界的には、世界金融危機により生命保険料の伸びは大きな影響を受け、特に2008年後半にはその影響が顕著に現れました。ユニット・リンク商品や、株式市場に連動する商品は、2008年の株式市場の暴落で深刻な影響を受け、先進工業国の生命保険料は5.3%下落して2兆2190億米ドルとなりました。一方、新興市場の生命保険料は成長を加速させ14.6%の伸びを見せています。

損害保険は世界的に落ち込みは少なく、2008年は1兆7790億米ドル、下落率も0.8%と軽微でした。これは需要減と保険料率の引き下げが主な原因です。先進工業国の損害保険料は1.9%縮小しましたが、新興諸国の伸びは衰えず前年比7.1%と堅調な伸びを示しました。

### 先進市場の中で突出する日本の保険料

生命保険市場世界第2位の規模である日本は、世界のトップ5を占める米国(-3.8%)、英国(-15.7%)、フランス(-13.4%)、ドイツ(-1.0%)の保険料がいずれもマイナス成長となる中、9.6%増となりました。アジア太平洋地域では、中国が2008年には+40.9%(2007年:+19%)と最も拡大する一方、インドは+0.2%と、2007年の+22%から大幅に減速しました。

日本市場の動向について、スイス・リーのアジア部門チーフ・エコノミストであるクラレンス・ウォンは、次のように述べています。「日本郵政(かんぽ生命)の売上高は2007年には不調だったものの、2008年はやや盛り返しました。しかし一方、急速な景気後退に加え、保険金不払い問題の後遺症が長引いたことにより、他の大半の保険会社は保険料の低下に直面しました。また、日本の株式市場は42%下落したため、ユニット・リンク商品への需要が落ち込みました」

#### **保険料の低下にもかかわらず日本の損害保険の損害率は安定**

日本の2008年の損害保険料は、ほとんどの保険種目においてマイナスとなり、2.1%縮小しました。一方、他の先進アジア諸国では損害保険料が引き続き伸びたものの、年末にかけて急速に鈍化しました。

日本の保険業界では、賠償責任保険の支払い請求額が高いものの、自然災害による損害が少なく損害率は安定したとみています。

#### **2009年の見通しは不透明、2010年には回復も**

ウォンは次のように指摘しています。「日本では、景気後退の結果、自動車と貿易関連を中心に保険需要が減少しており、それが今後の展望に影を落としています。このような困難を切り抜けるため、日本の損害保険会社は統合を視野に入れています」

「最近の金融市場の安定により、資産価格と株主資本に対する下方圧力がやや緩和してきました」とウォンは述べています。しかし、スイス・リーのエコノミストは、株式市場の大混乱と悲観的な雇用見通しが投資リンク商品販売に引き続き悪影響を及ぼすため、2009年の世界の生命保険料の伸び率は緩やかな低下が続くか、場合によってはマイナス成長になると予測しています。

ウォンはさらにこのように述べています。「アジア太平洋地域では、生命保険会社は、次第に掛け捨て型の生命保険商品にシフトし、さらにその他のニッチ市場を狙っています。こうした努力にもかかわらず、保険料の伸びは2009年には大きく鈍化するでしょう。しかし、実体経済が勢いを取り戻せば、生命保険業界は急速に回復に向かうと思われる」

損害保険分野における2009年の保険料ボリュームは、景気後退が商業保険を中心に需要を抑制する可能性が高いことから、世界的に横ばいを予測しています。しかし、2010年には、景気回復とともに資本財の不足が価格を押し上げ、追加的な保険カバーへの需要が増加するとスイス・リーではみています。

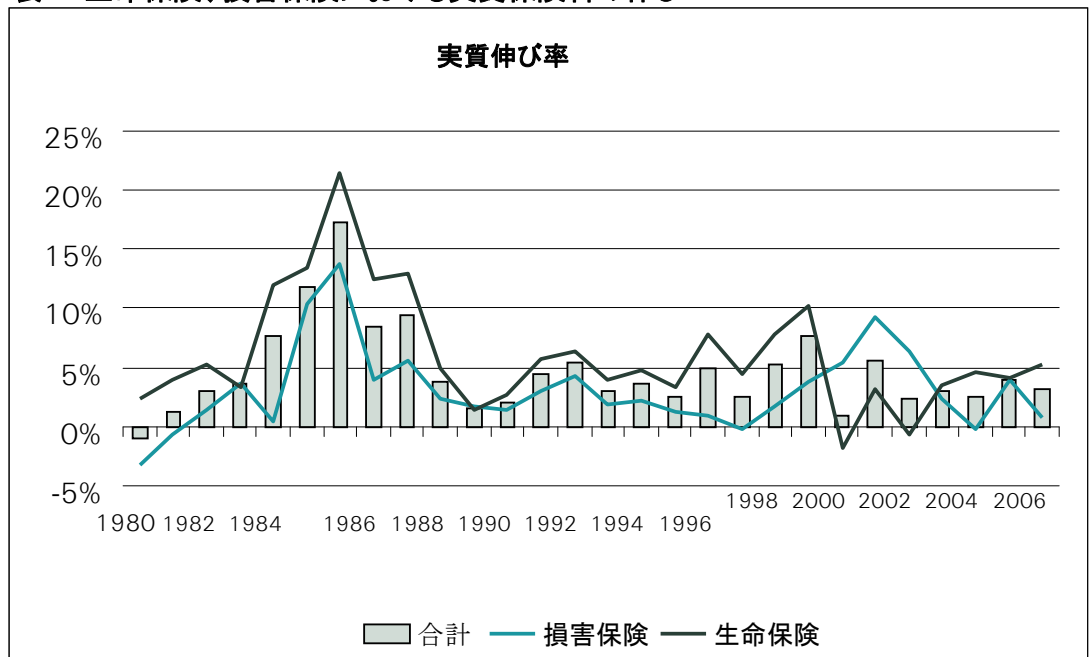
ウォンはさらに次のように述べています。「アジアでは、政府による景気刺激策(インフラ建築プロジェクトの前倒しなど)もまた損害保険に新たなビジネス機会をもたらす可能性があります。2010年については、保険料、収益ともに改善に向かうでしょう」

表 1. 2008年の主な保険市場の動向

先進国	生命保険料		損害保険料		保険料総額	
	十億米ドル	前年比*	十億米ドル	前年比*	十億米ドル	前年比*
<b>先進国</b>	<b>2 219</b>	<b>-5.3%</b>	<b>1 538</b>	<b>-1.9%</b>	<b>3 757</b>	<b>-3.4%</b>
米国	578	-3.8%	662	-3.1%	1 241	-3.4%
カナダ	48	2.4%	57	0.4%	105	1.3%
日本	367	9.6%	106	-2.1%	473	6.8%
英国	343	-15.7%	107	-3.2%	450	-13.0%
ドイツ	111	-1.0%	132	-1.5%	243	-1.3%
フランス	181	-13.4%	92	0.0%	273	-9.3%
イタリア	83	-15.6%	58	-3.3%	141	-10.9%
オーストラリア	43	17.9%	28	-1.5%	71	9.3%
アジア新興工業国**	152	-3.0%	50	2.8%	202	-1.6%
<b>新興諸国</b>	<b>272</b>	<b>14.6%</b>	<b>241</b>	<b>7.1%</b>	<b>513</b>	<b>11.1%</b>
中南米およびカリブ海諸国	41	7.0%	64	9.5%	105	8.4%
ブラジル	22	7.8%	25	9.0%	47	8.4%
中欧および東欧	26	18.6%	71	5.5%	97	8.8%
ロシア	1	-28.0%	38	7.9%	39	6.9%
南アジアおよび東アジア	164	19.0%	65	9.5%	229	16.3%
中国	96	40.9%	45	14.8%	141	31.3%
インド	49	0.2%	7	-0.7%	56	0.1%
中東および中央アジア	8	9.3%	22	3.1%	29	4.7%
アフリカ	38	5.5%	17	3.0%	55	4.9%
<b>世界</b>	<b>2 490</b>	<b>-3.5%</b>	<b>1 779</b>	<b>-0.8%</b>	<b>4 270</b>	<b>-2.0%</b>

注: \*実質、すなわちインフレ調整済み  
 \*\*香港、シンガポール、韓国、台湾  
 出典: 監督当局および保険協会が発表した確定計数と暫定数値、ならびに一部推計

表 2. 生命保険、損害保険における実質保険料の伸び



出典: 監督当局および保険協会が発表した確定および暫定数値、ならびに一部推計

### スイス再保険会社について

スイス再保険会社(略称「スイス・リー」)は、世界をリードする再保険会社です。当社は世界 20 カ国以上で事業拠点を展開しています。1863 年にスイスのチューリッヒで創業されたスイス・リーは、事業や発展に付随するリスクを負うことを可能にする金融商品を提供しています。伝統的な再保険商品と損害および生命・医療保険関連サービスは、包括的なリスク管理のための保険をベースにしたコーポレート・ファイナンス・ソリューションとその付加サービスによって補完されています。スイス・リーはスタンダード&プアーズから「A+」、ムーディーズから「A1」、A.M. Best から「A」の格付けを取得しています。